

なごやの学童保育

市連協ニュース No5

2021年度・9月7日発行

名古屋市学童保育連絡協議会

TEL(052)-872-1972

FAX(052)-308-3324

E-Mail:info@gakudou-nagoya.org

HP <http://gakudou-shirenkyou.nagoya/> Facebook <https://www.facebook.com/NagoyaNoGakudouHoiku>

事務等助成に年 144 万円

名古屋市

名古屋市は、学童保育所の事務負担などの軽減に関する助成拡充を決定しました。従来の「補助率 2/3、年上限 12 万円」が、2021 年度の途中から「補助率 10/10、上限年 144 万 3000 円」になります。

これは従来の市独自の助成金を、国が 2021 年度に新設した「放課後児童クラブ育成支援体制強化事業」に切り替えるものです。市は 2021 年度分として 8746 万 6000 円を 9 月補正予算案に計上しました。

国は同事業を、「遊び及び生活の場の清掃等の運営に関わる業務や子どもが学習活動を自主的に行える環境整備の補助等、育成支援の周辺業務を行う職員の配置等に必要な経費に対する補助」と説明しています。保育要員とは別の職員を配置するか、外部への委託が必要です。

対象となる主な業務は以下の通りです。

(育成支援体制強化事業の対象)

- ① 会計事務等（経理事務、労務管理、給与計算、社会保険料計算など）
- ② 業務の実施状況に関する日誌（子どもの出欠席、職員の服務に関する状況等）の作成
- ③ おやつ発注、購入等
- ④ 遊びの環境と施設の安全点検、衛生管理（清掃や消毒等）、整理整頓
- ⑤ 児童の宿題等の学習活動が自主的に行える環境整備の補助
- ⑥ その他、放課後児童クラブの運営に関わる業務や育成支援の周辺業務

詳細（要綱）の提示は、9 月議会が終わる 10 月中旬以降です。今から活用方法を検討し、学童保育の運営に生かしましょう。

昨年比 2 倍の 36 人

名古屋市が待機児童調査

昨年に続き名古屋市がまとめた「放課後児童クラブの利用状況について」によると、学童保育所の待機児童は 22 人（21 年 5 月 1 日時）で昨年度より 4 人増えました。児童館分を含むと 36 人で同 15 人増でした。待機児童対策の遅れが改めて明らかになりました。

しかも市の待機児童算定は、入所を断った世帯が調査時も入所を希望していることを学童保育所側で確認する必要があります。就業の断念、トワイライトスクールでの我慢などは数字に表れません。実際、申し込んで入所できなかった児童は、学童保育所で 70 人（昨年度 94 人）、児童館を含むと 99 人と、“算定上の待機児童”の約 3 倍います。

施設別の利用者は、学童保育所 6214 人（昨年 6147 人）、児童館 241 人（同 251 人）、トワイライトルーム 2038 人（同 1396 人）でした。学童保育所の利用児童数は前年比でわずか 1% しか増えませんでした。

市は対策として、「民家等を学童保育所仕様に改修する費用や、民家等を借りる家賃の助成により、より広い場所に移転しより多くの児童が受け入れられる様支援していく」としています。さらに新たな方策について、「放課後施策全体について今年度実施する有識者会議で検討する」としています。名古屋市学童保育連絡協議会は、新設・分割がしやすい制度を引き続き求めていきます。

日々の課題、共に学ぼう

全国学童保育研究集会

全国学童保育研究集会（全国研、全国学童保育連絡協議会主催）の開催が近づいています。全国の学童保育関係者が集まり、保育や子育て、学童保育所の運営の仕方や制度などについて学びあい、悩みや課題、喜び、解決策を共有する催しです。申し込みは9月末までです。

第56回 全国学童保育研究集会 オンライン
10月23日(土) 13:30-16:35
記念講演 講師:石原剛志 静岡大学教授
 学童保育の歴史から学び、未来をひらく
 - 前例のない課題に立ち向かう -

10月24日(日) 10:00-15:30
分科会 39のテーマに分かれて)
 ※今回は午前だけ、午後だけもあり！
申し込みは FAX、Web で9月末までに

初めての学童保育の研究集会は、1964年に東京都にて30人で開かれたとされています。当時は保育も運営も手探りだったはず。この先人たちの毎年の取り組みが少しずつ大きくなり、学童保育を進歩させ、全国に広げる推進力の一つになりました。

近年は5000人規模の参加者が集う一大イベントになりました。2016年10月の「全国研 in 愛知」には47の全ての都道府県から計4691人が参加。愛知県の各学童保育所から学童保育指導員や保護者、保護者OBが準備や当日の運営に関わりました。2020年の山形開催はコロナ禍で中止となりましたが、今年はオンラインで復活します。

住む所は違っても、子どもを思う学童保育指導員や保護者、関係者の気持ちは同じです。初対面同士でも、日頃の悩みや疑問を共有して解決の糸口を一緒に考えられるのが全国研です。

コロナ禍で思うように活動ができない昨今、みなさんが抱える悩みも大きいはず。今回はZoomによるオンライン開催のため、交通費や宿泊費もいりません。気軽に参加して、日頃のモヤモヤをスッキリしましょう。

魅力ある学童作りで交流

守山区が学習会

守山区学童保育連絡協議会は8月20日(金)に学習会を開きました。テーマは「コロナ禍での学童利用・必要性、皆が利用したくなる魅力ある学童づくりの取り組み方について」。千種区の佐藤さん、名東区の亀井さんのお二人を講師に招き、ディスカッション形式としました。

主なやりとりは以下の通りです。

Q：コロナ禍で行事がほぼ中止に。

A：行事は保育のいいアクセント。でも行事がすべてではない。保育においては指導員と子ども、子どもと子どもの関係性が大事。

A：やはり日頃の保育が肝心。日頃の保育があってこそ行事が魅力的に感じる。

Q：低学年が多く高学年が少ない。

A：低学年に目が行きがちだが、学年ごとに発達に合わせ接し方を変えていく。高学年になっても学童に残りたいと思える工夫が必要。

Q：入所児童が増え、低学年が多い。入所の人数を絞った方がいいのか。適正な人数は。

A：適正な人数はあるようでない。

A：自分の学童保育所でも、受け入れを絞ろうとしたが待機児童が発生しないよう全員を受け入れた。なんとかやれている。

Q：児童数が多く、ここ2、3年は低学年のために高学年にやめてもらう状況が続いている。

A：低学年の方が学童保育の必要性は大きい、高学年がいないと学童保育が成り立たない。子どもたちは6年間で急激に発達する。下の子は、上の子を見て発達欲求を持つので高学年がいるか否かで発達状況が違う。

A：高学年は悩みも多い。学童に来て話をしてホッとする部分もある。高学年にとっても学童は必要で、指導員と子どもたちとの関係性は大事。高学年がやめなくていい状況をつくるには学童保育所を増やすしかない。

Q：児童が減った学童保育所では父母の負担が大きい。それで学童保育を辞める世帯もある。

A：自分の学童保育所も、父母全員が役員をやるという時があった。現在は税理士に業務委託をするなど父母の負担を減らす努力もしている。